

AQUA

一般社団法人BMW技術協会 機関紙

2025 SEPTEMBER 9月号
No.394

写真：新潟コシヒカリの稲穂（謙信の郷）

千葉BM技術協会 第28期総会・学習会報告 講演学習会「村上園によるBMW技術を使ったお茶の有機栽培」

◎千葉BM技術協会28期総会

7月18日（金）、千葉BM技術協会は、千葉県千葉市にあるパルシステム千葉の地域活動施設「パルひろば☆ちば」で、個人会員、団体会員の役員、オプザーバー、事務局を含め22名が参加して第28期総会を開催しました。

総会の冒頭では、木内克則会長より、「毎年続く異常気象や農業労働者問題などの生産現場の課題と、今後の農業とBMW技術の展望」についてお話しをいただきました。総会議案は、2024年度で計3回実施したBMW技術連続講座の生協組合員向け学習会、BMW技術実践産地によるパネルディスカッションなど活動報告の第1号議案、2025年度活動計画として生協組合員を対象としたBMW技術基礎学習会の継続開催、BMW技術全国交流会やBMW技術協会が開催する学習会等への参加と交流、その他学習会開催の検討をすすめる第2号議案、2025年度予算の3号議案、2025年度役員選任（会長：木内克則氏（和郷園）、幹事：磯田有治氏（磯田工房）、北見則弘氏（北見畜産）、佐々木博子氏（個人会員）、鈴木善成氏（パルシステム千葉）、相談役：平野都代子氏（個人会員）、監査：加藤龍一氏（パル・ミート）」とした、第4号議案を含めて全議案とも満場一致で承認されました。

閉会はBMW技術実践産地とのパネルディスカッションで消費者側パネラーとして協力いただきましたパルシステム千葉の高橋由美子理事長から挨拶をいただき総会を終了しました。

◎BMW技術 講演学習会

「村上園」

■生物活性水を葉面・土壌・堆肥への散布等、多岐に活用

講演学習会は、総会終了後に同会場及びオンラインで開催し、36名が参加しました。講師はBMW技術実践産地でパルシステム千葉の独自商品の産地でもある、村上園（静岡県静岡市）の村上倫久氏、長男の村上真也氏を迎え「BMW技術を使ったお茶の有機栽培」について講演をいただきました。

講演は、村上園三代目の村上真也氏より行われ、お茶の有機栽培の始まりから生産と加工の両方で

有機JAS認証を取得した歴史と茶園の概要の説明が行われました。

BMW技術の実践報告として、生物活性水プラント施設内の微生物を安定させるために大きめの4,000Lタンク（4槽）を使用していること、生物活性水の葉面散布による病害虫予防と炭疽病予防、堆肥・圃場への生物活性水散布による土中の微生物の活性化、お茶の苗木栽培の障害となるイネ科雑草の抑制を目的に背の低い雑草への生物活性水散布など、様々な実践方法について説明いただきました。

村上園が有機栽培にこだわる理由として、お茶は、収穫後に洗流すことがない農作物のため消費者へ直接農薬を口に入れてほしくない事、農薬による土壌汚染をしない地域環境への配慮、自家製堆肥にこだわる等、お茶の樹が健康に育つ栽培環境づくりで、毎年高品質で美味しいお茶づくりを実践していることを報告いただきました。



千葉BM技術協会・木内克則会長（左）
パルシステム千葉・高橋由美子理事長



講演学習会の様子



村上倫久さん(左)と村上真也さん

村上園二代目の村上倫久氏からは、お茶に関する成分分析について説明等が行われました。窒素成分を多く施肥する一般的なお茶栽培ではなく、BMW技術を活用し、堆肥や有機肥料で栽培をすることで、身体に対し悪影響の懸念のある硝酸態窒素を抑えた土づくりをしていること(BMW技術を活用して4〜5年目当時、一般のお茶は1,500mg/Lの硝酸態窒素検出に対し、村上園のお茶は1/10以下となる140mg/Lの検出結果)。最後にお茶の有機栽培をとおして「人間も植物も同様、良いものを食べて吸収することが必ず健康に繋がります」と、食と農の大切さについて講演締めめのメッセージをいただきました。

○講演参加者からの感想及びご意見

・とても分かりやすいお話で参加出来てとても良かったです。お茶の抗酸化作用については知っているつもりでしたが、データのにもこんなにすごいと

わかり、これからも有機のお茶を村上園さんから購入して家族で楽しみたいです。

・村上園さんが、とても愛情をもってお茶を栽培されていらっしやることを感じて、私も村上園さんのお茶に愛情を感じました。硝酸のことも気になさっての栽培は本当にすごいです。

・有機栽培といっても「BMW技術」を使うことで、より良いお茶になること、栽培にもとても有益であることがわかりました。

・三代目の真也さんの説明とてもよかったです。これからも末永く村上園さんのお茶を利用することができるようで嬉しく、またありがたく思います。

・BMW技術による生物活性水を病害虫予防から、堆肥作り、また草刈りを少なくするための雑草抑制への活用など、様々な工夫されていて感動しました。有機でのお茶栽培は非常に難しいといわれるなか、多くの苦勞をいとわずに素晴らしいお茶の栽培を生産いただいていることに感謝しています。

・硝酸のことも気になさっての栽培は本当にすごいです。硝酸のことを知ってから、私も硝酸については気にしているところなんです。様々な方が村上園さんのような取り組みをしてみたいと切に思います。作物を育てるといってとは、想像以上に大変なことだと思います。とても感謝いたします。

◎報告：千葉BMW技術協会事務局

鈴木善成(パルシステム千葉)

【第34回BMW技術全国交流会 開催案内】

「笑顔と絆が続く未来を求めて」

～身近な環境を見つめ、持続可能な「食」「農」「暮らし」を切り開こう～

■開催日時

11月11日(火) 13時30分～17時30分
11月12日(水) 9時00分～12時30分
※12時45分～オプション視察

■開催場所『ホテル クリスタルパレス』

住所：茨城県ひたちなか市大平1丁目22-1

■全国交流会のスケジュール

◎一日目 11月11日(火)

- ・「基調報告」 BMW技術協会 理事長 伊藤幸蔵
- ・「基調講演①」 京都大学 教授 奥地拓生
- ・「基調講演②」 川田研究所 代表取締役 川田肇(予定)
- ・「開催地 基調講演」 茨城BM 代表取締役 清水裕一
- ・懇親会

◎二日目 11月12日(水)

茨城BM、パルシステム茨城 栃木、糸島BM農法研究会(福岡)などによる、BMW技術活用事例報告、実験報告など、6～7つの発表を予定しています。

◎視察コース

- 「Aコース」
 - ・清水牧場の堆肥場、BMプラント
- 「Bコース」
 - ・茨城BM生産者の圃場、清水牧場の堆肥場、BMプラント
- 「Cコース」
 - ・ラムサール条約登録湿地「潤沼」にて潤沼生態系再生プロジェクトの取り組み、清水牧場の堆肥場、BMプラント

「Dコース」

- ・ささぬま33ファーム、笠間市の花崗岩の石切場、偕楽園と徳川ミュージアム
- ※視察全コースは2日目の交流会終了後、バスで出発します。
- ※全コース、昼食はお弁当を車中で取っていただきます。
- ※帰りはJR水戸駅、ホテルクリスタルパレスで下車です。

■参加費

(1) 全国交流会の参加費

交流会参加費	8,000円(1日のみの参加でも同額)
懇親会費	8,500円
宿泊(朝食付)	10,000円(相部屋)
	13,000円(シングル 限定44部屋)

(2) 視察コース

「Aコース」	6,000円
「Bコース」	6,500円
「Cコース」	6,500円
	*弁当代・防疫対策費(防護服・靴カバー等)を含む
「Dコース」	7,500円
	*弁当代・徳川ミュージアム入場料を含む

■参加申込方法と参加費について

- ・開催案内を8月初旬に会員の皆様に郵送、一部の会員の皆様にはメールでもお届けしました。
- ・開催案内をご一読いただき、同封されている専用の参加申込書に記載の上、実行委員会事務局(BMW技術協会事務局)へFAXまたはメールにてお申し込み下さい。
- ・参加申込みの締切りは、9月22日(月)です。
- ・参加費は参加申込み後に指定の口座へお振り込み下さい。
- ・ご不明な点は、BMW技術協会事務局へご連絡下さい。

◎あいコープみやぎ資源循環型プロジェクト現地検討会報告

現在進行中の「あいコープみやぎ資源循環型プロジェクト」ですが、3年間のプロジェクトでスタートし、今期で最終年度を迎えています。本プロジェクトでは、あいコープみやぎ農法研究会（みやぎBM技術協会）の生産者が土づくりを通じて、生産技術の向上を図りつつ、地域資源の有効活用を柱とした堆肥作り、資源循環型農業による購入資材に依存しない農業を構築することを目的としています。今期はBM会員の皆様、あいコープの組合員に取り組みを伝えるため、なにより自分たちの取り組みを再現性のある形にするために、検証を行っています。

7月24日～25日、県内参加者の産地で圃場巡回等を行いながら現地検討会を実施いたしました。巡回には、プロジェクトの講師を務めるBMW技術協会の磯田理事にも同行いただき、課題の整理、堆肥作り、データ採取に関してなどをアドバイザーにいただきました。特に堆肥に関しては、今までの検証明や増殖用の堆肥ではなく、作付けに使う堆肥となるので、

課題を聞き取り、原料や、熟度、投入タイミングなど、細かに確認しながら巡回を実施しました。各産地の巡回の内容は下記の通りとなります。

①秋保ゆうきの会

太陽熱養生処理による、病気の発生、ならびに雑草の抑制を目的として堆肥を活用する実験を行っています。堆肥のベースとなるものは、種堆肥にもみ殻、落葉、鶏糞を加えたもの。堆肥舎が確保できないので、露地にてシートを活用しながらの製造となり、管理がしづらい環境ではありますが、放線菌の発生は確認できませんでした。温度が上がらなくなっている状況だったので、窒素（鶏糞）、米ぬか、山土、落葉などを加え、水分調製をしつつ、再発酵を促していくこととなりました。雨不足により、養生処理をするための水分が足りていない状況ではありましたが、収穫のスケジュールを考慮し、実験を進めるとのことでした。

②七郷クローバーズファーム
堆肥に含まれる菌の拮抗作用にて、病気の発生を抑えるのを目的として実験を行っています。ベースは増殖させた種堆肥に馬糞を主原料に製造を行っていません。製造サイクルが安定しており、種堆肥を原料とすることで、発酵にかかる時間が短縮され、なおかつ、ハウス内のトマトにおいては病気の発生が格段に下がっているとのことでした。病気対策としての活用とのことだったので、納豆菌を培養した菌体を堆肥に活用するアドバイスも行っていきます。また、露地野菜に関しては、雨不足の乾燥により、ネギがダメージを受けており、こちらでも病気への抵抗性の高い堆肥が有効ではないかとのことでした。

③はさま自然村

牛糞、もみ殻、そして漁業者から分けていただいたワカメ残渣をベースに、土壌の保肥力、保水力、排水力改善の実験を行っています。秋、冬作用の圃場で使用するため、施用時期は先のようにした。

堆肥施設がないので、水分調製が難しく、乾燥と、窒素不足により、もみ殻が未分解の状態となっていたため、協力生産者の豚糞を利用することをアドバイスしました。圃場への施用時期は9月中旬以降を予定しているとのことなので、実験結果のとりまとめは、年明けになるかと思われる。

④大郷グリーンファーマーズ

ハウス内の害虫の発生を抑制するため、購入肥料削減の実験を行っています。大郷の圃場は有機認証を取得しているため、使える原料も限られている状況ではありますが、米ぬかと鶏糞などをベースに種堆肥の増殖を行い活用しています。放線菌の発生は見られませんが発生数が少ないため、竹林の土壌等を活用して拮抗作用のある菌を増やしつつ、再度発酵させていく方向としました。効果として期待するものに、昆虫による被害の抑制があるので、キチン質を含む原料を堆肥に混ぜ込み、キチン質を餌とする放線菌を増殖させることをアドバイスしています。

また、建屋はありますが、ストックヤードや、製造用機械が不足しているため、それらの拡充も課題とのことでした。



秋保ゆうきの会の渡辺さんと堆肥



秋保ゆうきの会の太陽熱養生処理



七郷クローバーズファームにて細谷滋紀代表（左）と磯田理事



大郷グリーンファーマーズにて種堆肥の確認

④ あいこープ産直生産者の醤油カスを有効利用

産地の巡回とは別になりますが、タイミングを同じくして、宮城県内の醤油の生産者さんから、醤油カスの提供がありました。磯田理事によると、醤油カスに含まれる酵母菌類には制菌作用があり、病原菌となるものに対して有効になりうるとの話がありました。

提供いただいた醤油カスを各産地でシエアする形とし、それぞれの堆肥に活用することとなりました。提供元の鎌田醤油さんも、「農業分野で活用されることで、連携力の強化に期待できる。有用であると判断されるのであれば、協力体制を強化していきたい」とお話をいただきました。

3年間の活動から、県内生産者からも注目いただき、目的である、地域資源のシエア、循環が形になってきたことを実感しています。今年度の実験により、資源の利用方法を形作り、循環させるための基礎となるよう各産地とも活動していきます。

あいこープとしては、昨今の天候影響により年々農産物が作りづらくなる中で、生産者の皆様が丹精込めて育てた貴重な農産物を、組合員の皆様にお届けし続けること。

生産者同士を繋げる一助となることで、循環の輪を更に広げることを長期的な課題とし、これからも農法研究会のサポートを続けていきます。

◎報告：あいこープみやぎ資源循環型プロジェクト 西塚忠樹・佐藤澄奈



KFRC内のカネシゲパークに作られた墓石
左上から生田さん、椎名さん、アルフレッドさん
左下から秋山さん、堀田さん、兼重さん

8月5日～8日、オルター・トレード・ジャパン（ATJ）、APLA、BMW技術協会の共催で、『ネグロス・メモリアルツアー』を開催し、日本から16名が参加しました。

8月6日（水）、カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KFRC）にて、民衆交易、BMW技術の普及に貢献された6人の方々の偲ぶ、メモリアルセレモニーが行われました。

日本からの参加者に加えて、フィリピンからKFRC、ATP（オルター・トレード・フィリピン社）、その他の関係者を含め約60名が参加しました。セレモニーの企画と進行は、現地のKFRCとATPに行なっていたいただきました。



墓石に手を合わせる
グリーンコープ連合会の行岡顧問



参加者全員で記念撮影



KFRCの代表であった
アルフレッドさんのご家族

■ 6名の方々（亡くなられた時の所属と役職、または亡くなる前の最終所属先と役職）

- ◎ 兼重正次さん（グリーンコープ連合専務理事）
- ◎ アルフレッド・ボディオスさん（KFRC代表）
- ◎ 秋山眞兄さん（APLA共同代表／オルター・トレード・ジャパン副社長／BMW技術協会全国理事）
- ◎ 堀田正彦さん（オルター・トレード・ジャパン創設者、元代表）
- ◎ 生田喜和さん（生活クラブ大阪顧問、オルター・トレード・ジャパン代表、BMW技術協会常任理事）
- ◎ 椎名盛男さん（白州郷牧場代表、匠集団そら創設者、元代表）

以上の6人の方々の偲び、1人ずつに
対してメッセージやスピーチが行われ
ました。

また、KFRC内のカネシゲパークに

は6名の墓石があり、堀田正彦さんの墓石には奥様の堀田希里さんにより遺灰が納められました。生田喜和さんの墓石には愛煙していた煙草と追悼集、椎名盛男さんの墓石には愛煙していた煙草が納められました。

なお、兼重正次さんと秋山眞兄さんの墓石には以前より、遺骨の一部が納められています。

最後にスピーチをされた、グリーンコープ連合会顧問の行岡良治さんは兼重さんに対して、「あなたが作った、BMW技術協会、ATJ、ATPが若い世代を迎え、発展していますよ」と、さらに「私も亡くなったなら、あなたの横に眠らせてもらいたいです」と話されました。

セレモニーの後は昼食会、子豚のレチョン（フィリピンの名物料理で子豚の丸焼き）などを楽しみながら、多くの方々が昔話に花を咲かせていました。

◎報告：BMW技術協会事務局 秋山澄兄

◎三美産業（岡山県）のプラント巡回と視察を行いました

8月7日（木）、岡山県の三美産業が管理を行っているプラントの巡回と視察を行いました。西日本BMW技術協会より宮崎利明顧問、秦武士事務局長も同行しています。三美産業の妹尾芳訓社長、伊達研吾専務、井上正樹さん、石川侑暉さんに案内していただきました。

○美星加工センター（井原市美星町）

美星加工センターは、正式名称は「晴れの国岡山農業協同組合 美星加工センター」。銘柄豚の「美星豚」のハム・ソーセージを加工する農協直営の食肉加工工場です。加工センターから出る排水の処理を、BMW排水処理プラントで行っており、1999年2月から稼働しています。排水の日最大処理量は15tで、日常の管理点検を三美産業が担当しています。処理水は、BOD（生物化学的酸素要



美星加工センターの排水処理プラントにて

求量）18mg/L、SS（浮遊物質質量）も1桁代と、河川放流できる基準を大きくクリアしており、プラントの横を流れる河川に放流されています。排水の処理を担う汚泥の状態や量も非常によい状態で、処理施設全体から臭気が全くなく、処理水も臭いや濁りがほぼありません。BMW技術を使って処理を行っていることで、汚泥を引き抜く回数も通常より大幅に削減できているとのことでした。

○きじまる堆肥センター（高梁市）

きじまる堆肥センターには、1993年5月から生物活性水プラントが設置されており、三美産業が管理を担っています。生物活性水プラントは、第1槽〜3槽までが5tホーロータンクで、第4槽は少し大きい6t。原料は同堆肥センターで製造している「きじまる堆肥」で



きじまる堆肥センターの発酵槽

す。生物活性水は、堆肥製造時の水分調整、臭気抑制、発酵促進に活用されています。堆肥製造ラインの攪拌ロータリーに噴霧装置が設置されており、毎週約1.5tを散布しています。

堆肥センターでは、地域の畜産農家から堆肥原料の受け入れを行っており、肉用の牛糞、鶏糞、おが屑等を混合し、ロータリー式発酵施設で60日間、堆肥舎で40日間以上発酵させ、年間約1,000tの堆肥を製造しています。

○三美産業（高梁市）

最後に、三美産業の本社と本社で行っているバイオマス事業実験の視察も行いました。三美産業の主事業は、一般廃棄物処理業で、パッカー車による家庭ごみの収集やバキュームカーによるし尿の汲み取り収集などを行っています。

循環型の社会づくりを目指した環境面からのバイオマス事業の構想があり、

2014年から本社敷地内にバイオマス事業堆肥化実験場と生物活性水ミニプラントを設置し、家庭から出る生ごみを堆肥化する実験と、あわせて生物活性水を使用することで臭いやハエ発生を抑制する実験を行っています。社員の家庭から出た生ごみ年間約3,500kgを持ち寄り、生物活性水を散布しながら堆肥化を行い、できた堆肥は、自社農園の野菜栽培圃場に投入し、使用効果についても確認しているとのことでした。

第31回BMW技術全国交流会（2023年）においても、この実験の報告がありました。その後も引き続き実験を継続しており、実験結果も踏まえながら、自治体と連携したバイオマス事業（家庭生ごみの堆肥化等）の提案も続けているとのことでした。

視察後は、三美産業の妹尾志津子会長や、長年BMW技術協会全国理事も務められている妹尾直言相談役も交えた懇親の席も設けていただき、貴重な意見交換の場となりました。

◎報告：BMW技術協会事務局 遠藤尚志



きじまる堆肥センターの生物活性水プラント



三美産業の生ゴミの堆肥化実験



謙信の郷（新潟）

井沢輝雄さん



センターは「実践教育」の場で、1学年30人で、全寮制で、井沢さんが入った年は女性4人だったそうです。稲作、園芸、畜産の部門があり、畜産は更に、酪農、肉牛、豚、鶏に分かれていたということです。井沢さんは酪農で、この年は5人いたそうです。酪農は実践酪農場があり、20頭（乾乳期の牛を入れて）の牛があり、フリーバインで、搾乳はパーラー4頭×2列だったそうです。井沢さんは「この地域に向いていないのか、敷料を入れても2〜3日でドロドロになっていった」ということです。

当時、井沢さんの家はお米作りだけで、1.8haの広さで、田植えは親戚などの共同で、4〜5軒で順にみんなやっていったということです。稲刈りは、家族で1日で1反歩くらいを手刈り、はさかけしていたということです。

田植えと稲刈りの機械化という意味では稲刈りの方が先に発売されたようです。田植えの方が大変だったので、田植え機が発売されたときに「母はとても喜んでいたら」そうです。高校を卒業するころに、二条植えの田植え機発売で、瞬く間に乗用田植え機、コンバインも出て、重労働から解放されることになりました。

卒業して酪農をはじめたのですか。農業教育センターを出てすぐに、酪農を始めました。父が冬に出稼ぎに出ていて、桶職人として働いていたので、それを生かして大工をしていましたので、牛舎は自分たちで作るようになりました。高校の古い校舎の材木をもらってきて30頭規模の牛舎を作ったのですが、ちょうどオイルショック対策の総合資金の助成もあって、牛も対象だったので、初妊牛10頭を導入しました。

卒業したら酪農場で研修するつもりでしたが、研修どころではなく、キャンセルしました。卒業後すぐの4月からお産が始まりました。最初は手しぼりで、初産の牛の乳首は小さいので苦労しました。搾乳牛6〜7頭までは手しぼりでした。ちょうど高校の同級生の家が酪農をやめたので、バケットミルカーをいただけることになったので、ミルククーラーは購入して、設備が整いました。

酪農は多い時には、成牛36頭、他に育成牛が10頭位になりました。

——奥さんのことを聞かせてください。酪農の会議などで顔見知りになりました。自分より4歳下で、東京の短大を出て、自宅で手伝いをしていました。1982年11月22日、私が28歳の時に結婚しました。まだ「いい夫婦の日」と騒

井沢輝雄さんは、1954年1月19日生まれで現在71歳です。ユージンと誕生日が一緒だそうです。

井沢さんを語るにはこの話を先にさせていただきます。2017年1月に後継者である息子さんの貴史さんを事故で亡くしました。そして翌年（2018年）7月に牛舎を火災で焼失しました。現在は、奥

様とお二人で10haのお米を作っています。井沢さんのこれまでとこれからをお聞きました。

小学校は、大瀧（おおぶけ）小学校、大瀧中学校（現在は頸城（くびき）中学校）に進みます。そして、高田農業高校に進み、卒業して、県立農業教育センターで1年間学びます。

がれる前ですが。

——BMW技術との出会いは？

BMW技術との出会いは、峯村さんたちとの付き合いからです。峯村さんとは頸城地区のよつば会で交流がありました。1992年から1993年ごろ、峯村さんが「牛のシッコが飲めるぞ」と言い始めました。牛の尿は出てくるときはきれいですが、尿溜めに入ると汚くなります。そんな牛のシッコが飲めるはずはありません。米沢郷牧場で実際に見てみようということ、峯村さんと私と役場の担当者が行きました。そうしたら「飲める」のですね。米沢郷牧場には、その後4〜5回行くことになりました。

やはりプラントを作ろうということになり、1994年に施設補助金を県に申請しましたが保留になりました。それで



井沢輝雄さん ~コシヒカリの田んぼにて~

は環境美化ではどうかということで申請し直して、総合事業で半額助成になりました。施設は1995年に出来ました。BMWプラントとしては、尿処理で25t×4槽、これはサイレージを入れる施設を改良して使いました。飲水改善プラントは5t×2槽、生物活性水は5t×4槽の施設ができました。私たちのグループ、謙信の郷が発足するのが1997年です。BMW技術は謙信の郷を作るのに大きな力になりました。

——謙信の郷について聞かせてください。謙信の郷は1997年に出来ました。無農薬のお米を「無農薬」として農協が扱ってくれないので、グループを作り、無農薬・特裁米の販売を手掛けました。

最初は、大地を守る会、にんじんCLUB、コープとうきょうと取引しました。首都圏コープ（パルシステム）は、取引を考えたのですが、すでにBMW技術を使った他のお米の産地が取引しているのを遠慮しました。3年くらい経ったころ、当時のBMW技術協会の秋田理事長から「BMをやっているのであればこっちだろう」と首都圏コープを紹介してもらいました。謙信の郷が出来てから5年目くらいのことです。

現在は6〜7割がパルシステム、あとは直売所、らでいっしゅぼーやなどと取引しています。謙信の郷としてはJAS有機が15haくらいあります。

——井沢さんの現在の農業を教えてください。米は10haだけです。私と妻の二人で

やっています。土地は全部自分の土地です。広くて良い土地は借りてくれる人がいるのですが、ちよっと条件の悪いところであれば売りたい人はいます。農業委員会に買いたい旨を伝えておけば、紹介してもらえます。

10年前、訳あって10km以上離れている土地を買いましたが、それが一番遠いところ。10haのうち4haは家から近く、あとは5ヶ所くらいに分かれています。全部の田んぼの水の点検をすると35kmくらい走るようになります。実は私は腰を傷めていて、あまり重労働ができません。それで妻と相談して今年からJAS有機はやめてすべて特別栽培米にしました。

——ちよっと聞きにくいのですが、息子の貴史さんとお孫さんのことを聞かせてください。

貴史は剣道をしていたので、剣道の強豪である新潟の市立高校に進みました。この学校は、剣道部の父母会がすごく活発で、練習もきついの、1学年20人くらい入部するのですが最後は5〜6人しか残りません。貴史は国体に出場しました。実は私もかつて剣道で国体に出たことがあります。貴史の高校の間は、送り迎えをしました。

貴史は高卒で就農しました。就農して3年目21歳の時に結婚しました。2005年のことです。相手は保育士で、保育士を続けたいということでした。酪農は人手がかかるので、同じ牛飼いで和牛に切り替えることにしました。

息子が亡くなっても、嫁と孫は同じ敷地の別棟で生活しています。孫は2人で、上が19歳の女の子で新潟市内の専門学校に行っています。下の男の子は高校1年です。

——これからやりたいことを聞かせてください。お孫さんは農業をしてくれるでしょうか。

いろいろ失ったものがあるのですが、自分が七代目か八代目で、自分の農業を続けさせたいという気持ちがあります。体力という意味ではちよっと厳しいところにいます。

孫が継いでくれると良いのですが、まだ分かりません。孫が継げる時まで頑張ろうと思っています。

——ありがとうございます。

◎聞き手 西日本BMW技術協会 宮崎利明



出穂した自分の稲を品評する井沢輝雄さん
~新潟BM自然塾の学習会「俺の稲」にて~

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら

2025
8月 - 9月
Aug - Sep

【8月の活動】

- 3日 フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパスにて理事会に出席
- 5日 福島県二本松市のサンシャインにてプラント巡回
- 5～8日 フィリピン・ネグロス島で開催された、ネグロス民衆交易メモリアルツアーに参加
- 7日 岡山県高梁市のきじまる堆肥センターと、井原市の美星加工センターにてプラント巡回
- 18日 静岡県静岡市の清水養鶏場にて生物活性水プラント設置調査
- 19日 新潟県阿賀野市で開催される新潟BM自然塾の総会・学習会に出席
- 20日 みやぎBM技術協会（あいコープ農法研究会）が、新潟県上越市の謙信の郷を訪問し、視察交流を開催
- 22～27日 ベトナム・ハノイ市にて生物活性水プラントの設置工事
- 26日～27日 静岡県静岡市の清水養鶏場にて生物活性水プラント設置工事

【海外の予定】

- 2日～3日 北海道妹背牛町のファーマーズクラブ雪月花にてAQUA（BMWの人々）の取材
- 5日～10日 インドネシア・ジャワ島・シドアルジョ県とスラウエシ島ピントラのATINA社にてプラント点検
- 12日 大分県中津市にて耶馬溪ファーム建設定例会議に出席

- 18日 茨城県内のBMWプラント巡回
- 19日 第34回BMW技術全国交流会実行委員会と学習会を開催
- 24日 パルシステム茨城栃木にてBMW技術学習会

（その他）

- ・埼玉県内のパルシステム連合会岩槻センター、パルシステム埼玉藤・白岡の2センター、生活クラブたまご岡部農場と飯能GPセンターにてプラント点検
- ・大分県中津市の耶馬溪ファーム新設農場にてプラント設備工事

【事務局より】

8月の熊本県を中心とした九州地方の豪雨にて、一部のBMW技術協会会員の方々に、畑や家屋の浸水などの被害に遭われています。できるだけ早くの復旧・復興を願っています。

【第34回BMW技術全国交流会】

全国交流会の開催案内がお盆前に届いたかと思えます。できるだけ早めの参加お申込みをお願いいたします。

開催まで残り約3ヶ月、準備を進めています。9月19日には、奥地先生を招いて、実行委員会を対象とした現地調査と学習会、9月24日にはパルシステム茨城・栃木にて、組合員理事・職員の皆さんを対象としたBMW技術基礎学習会を予定しています。

◎BMW技術協会事務局 秋山澄兄

薬膳の話 143 ～ 蒟蒻（こんじやく）～

こんにやくの原料のこんにやく芋は、収穫までに3年以上かかる上、非常にデリケートで、葉や芋に傷がつくと、そこから腐敗してしまうそうです。シュウ酸カルシウムの毒性が強く、生食はできません。茹でてアルカリ処理を行ない、毒抜きをしてから食品に利用します。

97%が水分の低カロリー食品です。食物繊維のグルコマンナンが豊富でコレステロールを吸収します。グルコマンナンは人の消化酵素では消化できないので、ダイエット食品として人気があります。また、腸の老廃物を押し出す効果があるので、便秘の予防にもなります。利尿作用があり、膀胱炎や膀胱結石に用います。胆石や尿管結石、生理痛の痛みには、熱々に茹でた蒟蒻をタオルで包み温湿布をします。



こんにやく芋とこんにやく

四気は「冷」、五味は「甘」、帰経は「すい臓、胃、肺」です。熱を取り、四肢の痙攣を抑えます。常食すると肥満防止、糖尿病、便秘、去痰に効果的です。

暑さが続いています。熱中症予防に水分の補給はしていると思いますが、急に身体力が抜けるような時は、塩分が不足しているのかもしれない。塩をなめてみて、甘く感じるようでしたら、塩辛く感じるまで少しずつ塩をなめます。炎天下外出する際は、塩や梅干し等、塩分の補給ができるものを持って出るようにしましょう。

◎江戸時代の百珍本「蒟蒻百珍」より

- たちばな
蒟蒻を適当に切り、薄醤油で煮て、コシヨウを振る。
- 葱和え
葱三分、味噌七分、胡麻をよくよく擦り合わせて酒でゆるめ、短冊に切った蒟蒻を和え唐辛子の粉を振る。
- 玉すだれ
蒟蒻は細い糸づくりに切り、よく冷やして、わさび醤油、大根おろしで食す。ごま油をかけても良い。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ
北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業
中医薬膳士、総合漢方研究会会員